



山口又八石川縣小松市長ニ任スルノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年一月十日

内閣總理大臣小磯國昭

九

内閣

裏面白紙

入内第五九號

案	起
昭和三十年一月十日	裁可
昭和三十年一月十一日	施行

内閣總理大臣

内閣書記官長

中

内閣書記官

山口又八石川縣小松市長ニ任スルノ件ハ
上裁ヲ經テ左ノ通指令相成然ルヘシ

指令案

山口又八石川縣小松市長ニ任スルノ件
上奏ヲ經タリ

内閣

内閣第五九

山口 又 八

右ハ石川縣小松市長ノ職ニ在リ近ク任期満限ノ處更ニ後任市長
候補者トシテ推薦有之適任ト被存候ニ付市制第七十三條第三項
ニ依リ同市長ニ任シ度

右議ヲ奏ス

昭和二十年一月九日

内務大臣 大 達 茂 雄



図格R5

内務省

裏面白紙

191



發庶第二五〇號

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市長 山口 又 八



內務大臣 大 達 茂 雄 殿

市長候補者推薦書進達ノ件

本市々會議長和田傳四郎ヨリ標記ノ件別紙ノ通進達ニ付可然御取計相成
度候也

小松市役所

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市會議長 和田 傳 四 郎



内務大臣 大 達 茂 雄 殿

市長候補者推薦ノ件進達

昭和十九年十二月十三日附内務省發地第一四三號ヲ以テ本會ニ到シ御命
令相成候當市長候補者推薦ノ件ニ關シ本會ハ左記ノ通推薦候補條別紙關係
書類相添ヘ此段及進達候也

記

石川縣小松市向本折町寅三百九十七番地

山 口 又 八

小松市役所

推薦書

昭和十九年十二月二十七日市會ニ於テ滿場一致山口又ハ小松市長候補者トシテ推薦候也

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市會議長 和田 傳 四 郎



内務大臣 大 達 茂 雄 殿

小松市役所

194

市會議決第四十三號

市長候補者推薦ノ件

本市市長候補者推薦ニ關シ内務大臣ヨリ別紙ノ通命令相成タルヲ以テ左ノ者ヲ適任ト認メ市長候補者ニ推薦スルモノトス

昭和十九年十二月二十七日原案可決

石川縣小松市會議長 和田 傳 四 郎

住 所 石川縣小松市向本折町寅三百九十七番地

氏 名 山 口 又 八

生年月日 明治二十七年九月十五日

右議決ノ原本ト相違ナキコトヲ證明ス

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市會議長 和田 傳 四 郎



小松市役所

寫

内務省發地第一四三號

命 令 書

石川縣小松市會

其ノ市市長候補者昭和二十年一月十三日迄ニ推薦スベシ

昭和十九年十二月十三日

内務大臣 大 達 茂 雄

小松市役所

昭和十九年 小松市臨時市會々議錄（拔萃）

昭和十九年十二月二十七日第五回小松市臨時市會ヲ小馬出町五番地ノ一
石川縣商工經濟會小松支部ニ招集ス

應招議員左ノ如シ

一 番 奥村 忠次	二 番 堀 平太郎
三 番 細川 清	四 番 中谷 三治
五 番 法師 善五郎	六 番 道場 弘二
七 番 松本 徳太郎	八 番 坂出 嘉平
九 番 興津 徹	十 番 藤井 榮次
十一 番 松仕 友一	十二 番 二木 八郎
十三 番 大川 義市	十四 番 富澤 鑑忠
十五 番 武部 伴吉	十六 番 坂本 彌三郎
十七 番 吉田 義一	十八 番 向野 善義

小松市役所

十九 番 濱 永榮松	二十 番 岸 本徳二
二十一 番 高木 洋	二十二 番 山崎 吉郎右エ門
二十三 番 酒田 宇平	二十四 番 村田 助次
二十五 番 岡田 定松	二十六 番 北本 新吉
二十七 番 和田 傳四郎	二十八 番 太田 孝三
二十九 番 川田 甚吉	三十 番 太田 庄太郎
三十一 番 分校 伊平	三十二 番 小倉 直一
三十三 番 宮崎 喜一	三十四 番 林 信行
三十五 番 森田 良	三十六 番 本田 宗平
三十七 番 向出 正行	以上 三十七名

一議 長（和田） 議員定数ノ半數以上出席ニ付午后三時十三分會議ヲ

開ク旨ヲ告グ

出席議員 應招議員ニ同ジ

一議 長（和田） 本市々長ハ明二十年一月十三日ヲ以テ任期満了ト相成リマスノデ去ル十二月十三日付ヲ以テ内務大臣ヨリ本市會宛後任市長候補者ヲ明春一月十三日起ニ推薦スベシトノ命令書ガ先般到達致シマシタノデ去ル十二月十七日市會全員協議會ヲ開催致シ協議ノ結果候補者ノ選衡方ヲ委員ヲ設ケ慎重審議スベシトノ意見ニ一致シ其ノ委員ノ選衡ニ關シテハ議長ニ一任相成リマシタノデ副議長ト相計リ十一名ノ選衡委員ヲ指名致シ去ル二十日及本二十七日ノ兩日ニ亘リ慎重熟議ヲ遂ゲ各員隔重ナキ意見ノ開陳アリタル結果全員現市長山口又八君ヲ推薦スルコトニ意見ノ一致ヲ見タル旨委員代表ヨリ申出アリ茲ニ市會議案第一號ヲ議題ニ供スル次第ナル旨ヲ述ブ

一議 長（和田） 日程ニ依リ議案第一號ヲ上提スル旨ヲ告グ

一十二番（二本） 甚ダ情越デアリマスガ選衡委員ヲ代表シ委員會ノ經

小松市役所

過ニ付報告致シマス本委員十一名ハ本月二十日及二十七日ノ兩日ニ亘リ慎重審議各員隔重ナキ意見ノ吐露アリ何レモ愛市ノ念燃ルガ如ク討議ヲ重ネタル結果現市長山口又八君ヲ推薦ニ衆議一決致シタ次第ニテ同君ハ初代本市長トシテ數多ノ難局ヲ打開シ本市ノ前途ニ光明アラシメタル治績ヲ舉ゲラレタル手廻職見ニ對シテ私ヨリ申上グル迄モナク各位御諒承ノ所ニシテ時局下最適任ト認メ推薦致シタル次第ニ付何卒各位ノ御賛成ヲ希フ次第デアル

一十四番（宮澤） 本員ハ只今委員代表タル十二番議員ノ意見ニ賛成ノモノデアル、御承知ノ如ク現市長山口又八君ハ昭和十六年一月初代市長トシテ就任以來四ヶ年此ノ間ニ舉ゲラレタル治績ハ改メテ申上グル迄モナク各位十分御承知ノ通デアリマス、即チ市制實施直後ノ全般的計畫並ニ各種各様ノ複雜多岐ニ亘ル問題ニ對處シ難局ヲ打開シ建設ニ身ヲ以テ當ラレタル精神ハ現下國難ニ殉ズル陣

風特政隊員ニモ比スベク今日ノ市發展ノ基礎ヲ造ラレタルモノト
謂フベク草都トシテ將又産業都市トシテ大ナル發展ヲ遂ゲツツア
ル輻輳セル現狀ニ盡ミ同右ノ承諾ヲ得ルナレバ其ノ手腕英才期シ
テ待ツベキモノアルヲ信ズルモノデアリマス何卒御出席ノ全議員
三十七名滿場一致拍手ヲ以テ賛成セラレムコトヲ希フ次第デアル

(拍手起ル)

議長(和出) 十四番議員ノ動議ニ異議ナキヤヲ諮フ

「異議ナシ、異議ナシ」ト呼ブモノアリ

議長(和出) 御賛成ノ方ハ起立セラレタシト告グ

全員起立

議長(和出) 滿場一致御賛成ニ相成リタルニ付議案第一號ハ原案

ニ可決確定スル旨ヲ告グ

(拍手起ル)

小松市役所

議長(和出) 以上ヲ以テ會議ノ事件全部結了ニ付會議ヲ閉ヅベキ

旨ヲ告グ

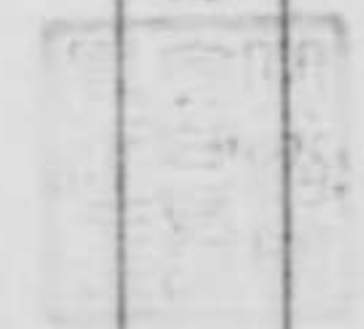
干時 午後三時三十三分

市長(山口) 市會ノ閉會ヲ宣ス(中略)干時 午後三時四十一分

右原本ト相違無之候也

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市會議長 和田 傳 四 郎



市會出席狀況調書

一、出席議員數 三十七名

一、缺席議員 ナシ

右昭和十九年十二月二十七日市長候補者推薦市會ノ出席狀況ニ相違無之候也

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市會議長 和田 傳 四 郎



小松市役所

市長候補者調査

(昭和十九年十二月二十七日現在)

氏名

山口又八

生年月日

明治二十七年九月十五日

本籍

石川縣能美郡西尾村字岩上 二番地甲

住所

石川縣小松市向本折町寅三百九十七番地

位階勳等

從七位 勳六等

公民権ノ有無

有 住所期間四年

職業

公吏

市制第十條第二項及第五項、第七十七條、第七十八條又ハ、第百七十條(之ニ類スルモノヲ含ム)ニ該當ノ有無

無

資産

不動産 三十萬圓

信望

臨時代理者任命、市長

賞

罰

昭和十五年四月二十九日文部事務ノ功ニ依リ勳六等瑞寶章及一時賜金ヲ賜フ

當選一回及今次再選ノ信望極メテ厚シ

罰ナシ

小松市役所

年 月 日	事 項
大正十二年一月十三日	石川縣巡查拜命
昭和九年三月三十日	任石川縣警部
昭和十三年六月四日	任地方警視
昭和十五年六月二日	免本官（地方警視）
昭和十五年六月三日	能美郡小松町長就任同年十一月三十日廢町トナル
昭和十五年十二月一日	小松市長臨時代理者拜命
昭和十六年一月十四日	小松市長就任
昭和十六年一月十四日	大政翼賛會小松市支部長囑託
昭和十六年四月一日	小松市青少年團長就任
昭和十七年四月一日	小松市翼賛壯年團名譽團長就任
昭和十七年七月十一日	小松市教化聯合會長就任
—— 小松市役所 ——	
昭和十七年九月二十五日	石川縣教育會小松市支會長就任
昭和十七年十月一日	小松商工會議所顧問就任
昭和十八年十月二日	石川縣經濟會議所顧問就任

市長候補者同意書

私儀

昭和十九年十二月二十七日ノ市會ニ於テ小松市長候補者トシテ推薦セラレ候處御選任アリタル場合ハ就職可仕候

昭和十九年十二月二十七日

石川縣小松市岡本折町寅三百九十七番地

山口又八

内務大臣 大 連 茂 雄 殿

内務省石地第一號

別紙小松市長ニ任スルノ件上奏書進達ス

昭和二十年一月九日

内務大臣 大 達 茂 雄



内閣總理大臣 小 磯 國 昭 殿

内 務 省

20.1.10
付受

204